

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-45
研究課題名 前頭洞のう胞の治療成績
研究期間 西暦 2014 年 6 月 (倫理委員会承認後) ~ 2014 年 12 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料 (対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 生検材料 (対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他 ( 術前 CT, カルテ記録 )
上記材料の採取期間 西暦 2011 年 1 月 ~ 2014 年 4 月
意義、目的 前頭洞のう胞はその解剖上、再発を繰り返し易い疾患である。かつては外切開で行われていた手術が、近年では鼻内視鏡下の拡大前頭洞手術(Draf type IIb または III)を行うことによって良好な成績を得ることができるようになってきた。 しかし、拡大前頭洞手術は彎曲したドリルが必要であり、手術の難易度も高い。重症でない患者に対しては、侵襲が少ない内視鏡下に鼻庭を削らない手術(Draf type IIa)を行っても良好な成績を得ることができると考え、実施責任者が行ったかつての手術症例の予後を検討する。
方法 1) 前頭洞のう胞に対し、Draf type IIa 手術を施行した症例。 2) 性別・年齢・前頭洞開口部の前後径・左右径・骨肥厚の有無・骨欠損の有無・感染の有無・鼻手術既往の有無・喘息の有無・好酸球数・前頭洞自然口周囲の解剖 staging(PJ Wormald の分類 1-4)・予後 (前頭洞開口が開存しているか閉鎖してしまったか) を抽出。 3) 前頭洞開口が閉鎖してしまった症例と開存している症例を比較して予後不良因子を抽出する。N が少なく統計学的には解析できないと思われるが、可能であれば多変量解析を行う。 4) 使用するデータは匿名化して誰のものかわからないようにして使用する。
問い合わせ・苦情等の窓口 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科 野村和弘 022-717-7304